

熱田神宮で再発見された絶滅危惧種ウチワゴケ

寺本 匡寛^{(1) (2)} 山崎 俊哉⁽³⁾ 安藤 義範⁽³⁾ 本宮 万愛⁽³⁾⁽¹⁾ 熱田神宮 〒456-8585 愛知県名古屋市熱田区神宮1丁目1番1号⁽²⁾ 日本福祉大学健康科学研究所 〒475-0012 愛知県半田市東生見町26-2⁽³⁾ 株式会社建設環境研究所 中部支社 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3-20-27 御幸ビル5FRediscovery of the Endangered Plant *Crepidomanes minutum* (Blume)

K.Iwats at Atsuta Jingu Shrine in Nagoya, Japan

Tadahiro TERAMOTO^{(1) (2)} Toshiya YAMAZAKI⁽³⁾Yoshinori ANDO⁽³⁾ Mana MOTOMIYA⁽³⁾⁽¹⁾ Atsuta Jingu Shrine 1-1-1 Jingu, Atsuta-ku, Nagoya, Aichi 456-8585, Japan⁽²⁾ The Research Institute for Health Science, Nihon Fukushi University 26-2, Higashihaemi, Handa, Aichi 457-0012, Japan⁽³⁾ Chubu branch office, Civil Engineering and Eco-technology Consultants Co., Ltd. 5F Miyuki Bldg., 3-20-27, Nishiki, Naka-ku, Nagoya, Aichi 460-0003, Japan

Correspondence:

Tadahiro TERAMOTO E-mail: rinen@atsutajingu.or.jp

要旨

ウチワゴケ *Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats. は、名古屋市熱田区にある熱田神宮において過去の記録はあるものの1978年以降の記録はなく地域絶滅したと考えられていた。そのため、レッドデータブックなごや2015には市内において守山区と中区の2区にのみ生育するとされていた。今回、熱田神宮境内で本種の生育を確認したので報告する。

はじめに

ウチワゴケ *Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats. は、低地の山林内などの岩上、樹幹上、またはごくまれに地上に生じるとされるコケシノブ科の小型の常緑性シダ植物である。北海道と東北地方ではややまれに、関東地方西部以西、琉球・小笠原ではごくふつうに生育が見られる(岩槻, 1999)。

環境省レッドリスト2020(環境省, 2020)とレッドデータブックあいち2020(愛知県, 2020)には記載がないものの、「ややまれ」とされる東北地方の山形県で絶滅危惧IB類、北海道で準絶滅危惧、また、「ふつう」とされる千葉県で要保護生物、東京都・富山県・石川県・島根県で絶滅危惧II類に選定されており、絶滅の危機に瀕している都道府県もある(NPO法人野生動物調査協会・

NPO法人Envision環境保全事務, 2007)。

愛知県内では、東三河、西三河の山地には「やや普通」で、尾張では名古屋市のほか、瀬戸市・尾張旭市・美浜町・南知多市・犬山市・小牧市・春日井市で確認されている(名古屋市, 2015)。レッドデータブックなごや2015によれば、名古屋市内では守山区と中区の2区のみで記録があり(名古屋市, 2015)、名古屋市版レッドリスト2020では、絶滅危惧II類と判定されている(名古屋市, 2020)。中でも、中区の生育地は名古屋城の石垣で、市街地に生育する例として特に貴重であるとされる(名古屋市, 2015)。今回、本種を熱田区の熱田神宮境内で確認したので報告する。

確認状況と生育記録

2024年1月24日に筆者らが名古屋市熱田区神宮1丁目に位置する熱田神宮境内（図1）の本宮西側に生育するクスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl（胸高直径：96.2cm）で、北側に30°傾斜した樹幹の北東側で確認した。ウチワゴケは、地上から60～260 cm、幅7～20 cmの範囲に小群落を形成しており、生育地は日照時間が短く、樹幹流が集まりやすい環境であった。発見時は丸く展葉していたものの（図2a）、2024年2月3日に再度確認に行ったところ、乾燥のため葉を閉じた状態（図2b）であり、一見してウチワゴケと認識するには難しい状態であった。このため、乾燥時にウチワゴケを確認するには熟練を要するであろう。

熱田神宮の植物相について記載された文献を精査したところ、郷土博物資料第二編 熱田神宮植物 第一集（名古屋博物館学会，1933）、熱田神宮植物相（天野，1935）、熱田神宮境域の植物（熱田神宮宮庁，1942）、熱田神宮林苑植物目録と林床植物（高木・脇田，1978）、平成25年度環境省生物多様性保全推進支援事業 都市部におけ

る生物多様性の保全と外来生物対策事業報告書（なごや生物多様性保全活動協議会，2014）があった。そのうち、ウチワゴケの記録は、名古屋博物館学会（1933）、天野（1935）、熱田神宮宮庁（1942）、高木・脇田（1978）の4文献にあり、少なくとも1933年から1978年までは、恒常的に生育していたことが伺える。名古屋博物館学会（1933）によると、社殿裏に湧き水があり、俗に「お清水さま」と呼ばれている末社清水社（以下、清水社）にその記録がある。また、同所にヤマアイ *Mercurialis leiocarpa* Siebold et Zucc.の記録がある（名古屋博物館学会，1933）。ヤマアイは林内のやや湿潤環境に生育する種で、ウチワゴケ同様に、1978年以降の記録がなく、清水社の周辺環境が変化してしまったことが伺える。先述したとおり、レッドデータブックなごや2015に熱田区の記載はなく、熱田神宮境内のウチワゴケは、絶滅した

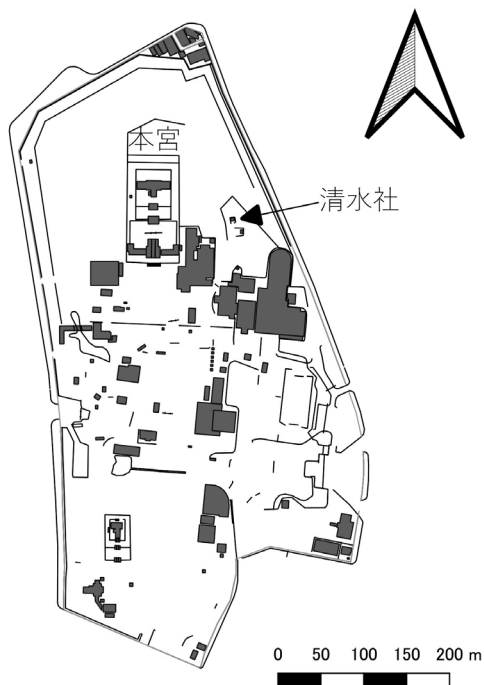


図1. 熱田神宮境内図、『平成29年度名古屋市都市計画基本図』（名古屋市発行）を基に作図

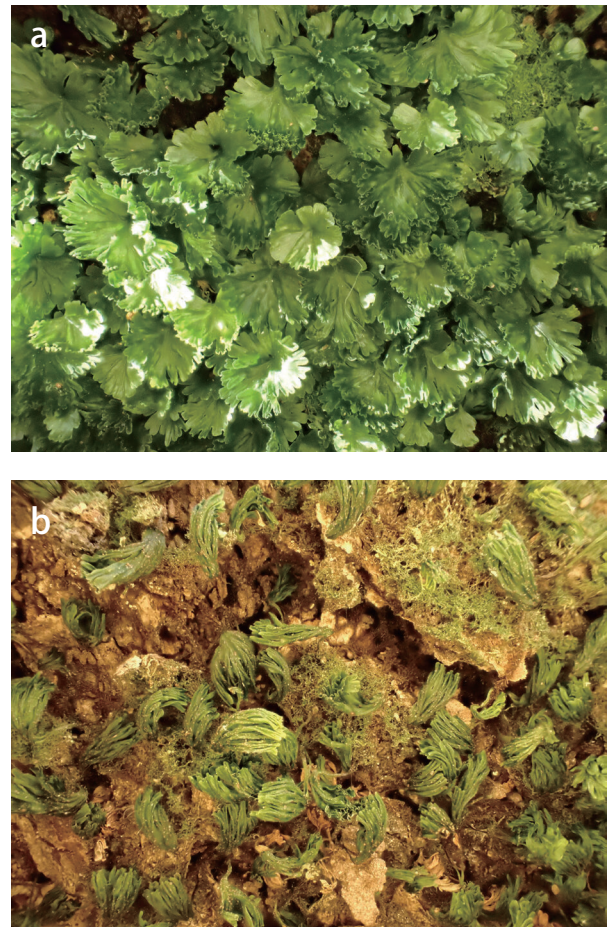


図2. ウチワゴケ、a) 展葉したウチワゴケ（2024年2月6日撮影）、b) 葉を閉じたウチワゴケ（2024年2月3日撮影）

と考えられていた。橋本ら(2021)による熱田神宮の森の成立時期に当てはめると、清水社は江戸時代から樹林の範囲に該当する。一方、今回確認された場所は、昭和初期以降に形成された樹林の範囲に該当し、比較的新しい社叢といえる。今回確認された生育地以外にも、境内のどこかに人知れず生育している可能性も捨てきれない。名古屋城の石垣同様、小群落のため乾燥等により消失するおそれがあり、市街地に生育する例として特に貴重と言える。

証拠標本：愛知県名古屋市熱田区神宮1丁目. Aichi Pref. Nagoya City, 1 Jingu, Atsuta-ku, February 6, 2024, T. Teramoto, NBC-NP17531

引用文献

愛知県. 2020. レッドデータブックあいち2020
<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/rdb/index.html>. 2024年2月12日確認

天野景従. 1935. 熱田植物相. 天野景従, 愛知. 6pp.

熱田神宮宮庁. 1942. 熱田神宮境域の植物. 熱田神宮宮庁, 名古屋. 59pp.

橋本啓史・多和加織・松浦文香・長谷川泰洋. 2021. 近代以前の熱田神宮社叢の林相の変遷. なごやの生物多様性, 8: 23-36.

岩槻邦男. 1999. 日本の野生植物シダ. 平凡社, 東京.

311pp.

環境省. 2020. 環境省レッドリスト2020.
<https://www.env.go.jp/press/107905.html>. 2024年2月12日確認

名古屋博物学会. 1933. 郷土博物資料第二編熱田神宮植物第一集, 名古屋博物学会, 名古屋. 14pp.

なごや生物多様性保全活動協議会. 2014. 平成25年度環境省生物多様性保全推進支援事業 都市部における生物多様性の保全と外来生物対策事業報告書, なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 232pp.

名古屋市. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2015－植物編－. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課(編), 名古屋. 385pp.

名古屋市. 2020. 名古屋市版レッドリスト2020.
<https://www.city.nagoya.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000125/125632/redlist2020.pdf>. 2024年2月12日確認

NPO法人野生動物調査協会・NPO法人Envision環境保全事務. 2007. 日本のレッドデータ検索システム.
<http://jpnrdp.com/index.html>. 2024年2月12日確認

高木典雄・脇田晴美. 1978. 熱田神宮林苑植物目録と林床植物, 熱田神宮林苑保護委員会調査報告書, pp.39-48. 熱田神宮宮庁, 名古屋.